

大阪らしさを活かした観光振興の取組みについて  
(委員からのアイディア集)

## 【参考】 大阪らしさを活かした観光振興の取組みについて①

### 観光振興施策のアイデア

- ▶ 地方公共団体における観光振興施策については、各団体が地域の特性や県民性を生かした様々なアイデアを発揮し、オリジナルな施策やユニークな施策に取り組まれています。大阪府においても、今後、観光振興施策を積極的に取り組んで行くにあたって、何か大阪らしさを生かした施策に取り組めないものか、各委員からの提案を以下のとおり紹介いたしますので、具体的な事業を検討する際の参考にしていただければ幸いです。

#### 【大阪ナビの創設】

情報の発信力を高め、夜遊びができる大人の観光都市を売り込むため、観劇や食事、セールなどの情報を得るための「ウルナビ」のような情報掲示板「大阪ナビ」を創設するなど、情報の窓口の整備を充実する。

#### 【学生、留学生案内ボランティア(ようほこし隊)】

大阪の大学に通う観光や外国語を学ぶ学生又は留学生らによる案内ボランティアを実施する。主要ターミナル駅や空港、バスターミナルなどで、外国人観光客らを土日限定で案内する。まだ通訳が充実していない言語圏からの留学生の活用により、より多くの言語に対応した案内を実施するとともに、外国語を学ぶ学生と外国人との実際の交流の機会を提供する。

#### 【民間の事業提案に対する助成】

コミュニケーション、環境整備・改善・開発、おもてなし企画など項目と評価基準を立てて、より広く影響のある民間の事業企画に助成を行う。これらの事業を通じて、全般的な環境整備と、観光ビジネスの活性化を目指す。地域住民に資する提案にポイントを付加するなどすると、受入れ側の積極的な協力を引き出すきっかけになることを期待する。

## 【参考】 大阪らしさを活かした観光振興の取組みについて②

### 【公共施設のトイレ整備】

公衆トイレの洋式化、清潔なことへの旅行者のニーズは高く、旅行者の快適性、特に外国人旅行者の利便性の向上や、地域住民の満足度向上を図るとともに、都市のイメージUPに繋がるよう、公共施設のトイレ整備を実施する。なお、整備にあたっては、できる限り維持費を抑える設備を導入する。

### 【ICカードを活用したエリアカード、MICEへの取組み】

インバウンド客の増加により、一部業種・業態に大きな消費促進効果がみられるものの、域内回遊による消費の拡がりやエリアでの宿泊日数の向上に繋がっていない可能性が指摘されている。そこで交通系ICカードを基軸に、訪日旅行者への利便性の増進と国際会議・展示会での活用が1枚のICカードでできるようにすることで、取組みの強化を進める。エリア内の公共交通機関の乗り放題、沿線の観光入場施設の無料化(割引料金のカード代金への組み込み)による、小銭からの解放や沿線の買い物施設での割引、個人情報と連動させることによる免税措置の簡素化などICカードを超えたクーポン形式次世代決済システムという位置づけで取組みを行う。

### 【スポーツ・ツーリズム・ムーブメント】

2019年のワールドカップ・ラグビーを皮切りに、2020年の東京オリンピック、2021年のワールドマスターズゲームズなどスポーツイベントをきっかけに地域活性化の取組みが続いているが、これらを一過性の取組みに終わらせないよう、「スポーツ・ツーリズム・ムーブメント」に取組む。宿泊税のみならず、クラウドファンディング等を活用し、関西の観光関連事業者のスポーツへの興味・関心を高めるための運動「スポーツ・ツーリズム・ムーブメント」を展開し、広く関西全体でスポーツ・ツーリズムを支える機運を高める。

### 【観光案内所の機能強化】

ツーリストインフォメーションセンターの外国語対応スタッフの更なる増員、営業時間の拡大、営業場所の増設など機能強化を図る。

## 【参考】 大阪らしさを活かした観光振興の取組みについて③

### 【24時間多言語対応安全・安心コールセンターの設置】

急病や事故に遭った場合に、大阪府内の医療機関の案内や、災害情報提供等に対応した24時間・多言語対応の安全・安心コールセンターを設置する。

### 【Wi-Fiの拡充・機能改善】

セキュリティを確保しながら、Osaka Free Wi-Fi の接続ポイントの更なる拡大、データ通信速度の更なる改善を図る。  
(他の府県等のWi-Fiサービスとの連携も含め)

### 【翻訳アプリ・通訳サービス利用に対する助成】

翻訳アプリ・通訳サービスなどが利用できるよう、大阪府内の宿泊施設に対し、タブレット端末導入費用を助成する(補助受付期間限定、通信費等ランニングコストは各自負担)。

### 【QRコードによる観光案内】

大阪府内の神社仏閣等観光史跡内に設置されている解説・案内板にスマートフォンやタブレットなど情報端末機器をかざす(またはQRコード)を読み取る)だけで、端末に当該施設の歴史や意味解説を多言語で表示する。